

# 令和4年度小牧市歴史館等運営委員会議事録

## 1 会議の名称

令和4年小牧市歴史館等運営委員会

## 2 開催日時

令和4年5月26日（木）午前10時00分から午前11時30分

## 3 開催場所

小牧市役所本庁舎3階 301会議室

## 4 報告及び議題

### ○報告

(1) 令和3年度の運営状況について

(2) 小牧市歴史館及び小牧山城史跡情報館の展示改修（案）について

### ○議題

(1) 入館料の見直しについて

## 5 公開又は非公開の別

公開

## 6 出席者

〔委員〕池田 洋子、浅井 啓介、西川 菊次郎、富嶋 明人

〔事務局〕文化財課長 武市 礼子、主事補 伊藤 愛理

こまき市民文化財団 主任 鈴置 路子、再任用 清田 憲司

## 7 会議の結果

(午前10時00分開会)

【事務局（武市）】定刻になりましたので、ただ今から令和4年度小牧市歴史館等運営委員会を開催いたします。

本日はご多忙のところ、ご出席いただきありがとうございます。

なお、本日は山内委員から、欠席をされるご連絡をいただいております。

本委員会につきましては、「小牧市歴史館等の設置及び管理に関する条例」第16条に規定してありますとおり、歴史館等（小牧市歴史館と小牧山城史跡情報館の2施設）の運営を円滑に行うため、設置するものであります。

委員の任期につきましては、委員名簿に記載のとおり、令和5年4月24日までとなっております。

なお、この会議は、小牧市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき公開するものとしていますが、本日は傍聴者はありません。なお、議事録につきましては、発言内容、お名前とも、小牧市のホームページにて公開しますので、ご承知おきください。

本日は今年度から導入した会議録作成システムのマイクを机上に設置させていただいております。このため恐れ入りますが、発言される場合はお一人ずつはっきりとお話していただきますようお願い申し上げます。

次に、会議資料の確認をいたします。

- ・初めに次第 1枚、
- ・名簿 1枚、
- ・報告の資料としまして、資料1-1と1-2 各2枚ずつ
- ・資料2 4枚
- ・議題の資料としまして、資料3が1枚とその参考資料A3版1枚

を机上に置かせていただきました。不足などございましたらお申し出ください。

また、委員の異動がありましたので、ご紹介させていただきます。校長会代表として、前任の森川委員に代わり、富嶋委員にご就任いただきました。

続きまして事務局職員の異動もございましたので紹介をさせていただきます。

【事務局（伊藤）】文化財課の伊藤です。

よろしく申し上げます。

また小牧市歴史館及び小牧山城史跡情報館の指定管理受託者でございます、一般財団法人こまき市民文化財団の清田です。

【こまき市民文化財団（清田）】

よろしく申し上げます。

こまき市民文化財団の鈴置です。

【こまき市民文化財団（鈴置）】はい。鈴置といたします。

よろしく申し上げます。

【事務局（武市）】それでは、次第に沿って進めさせていただきます。次第の1として、事務局より開会にあたりまして、あいさつをさせていただきます。

【事務局（武市）】本日はご多忙のところ、小牧市歴史館等運営委員会にご出席いただ

きましてありがとうございます。

史跡小牧山では平成 20 年から始めました山頂主郭地区における発掘の成果をもとに、令和 3 年度から 5 か年をかけて、信長の築いた石垣等の復元整備を行う予定でございます。昨年度はその初年度として、歴史館北側の整備を行ったところであります。また来年、令和 5 年には、NHK 大河ドラマで、「どうする家康」と題しまして、家康を主人公にしたドラマが放映されることとあわせて、小牧山へ市外からも多くの方に来訪いただくことが期待をされております。

本日は、小牧市歴史館と小牧山城史跡情報館（れきしるこまき）について、令和 3 年度の運営状況や、令和 4 年度の事業計画についての報告、また、両施設の展示改修計画についてご報告をさせていただいた後、議題としては、入館料の見直しについて、挙げさせていただきます。

皆様から忌憚のないご意見をちょうだいしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、次第の 2 「委員長及び副委員長の選出」についてであります。

小牧市歴史館等運営委員会規則第 2 条に「委員会に委員長及び副委員長 1 人を置き、委員の互選によりこれを定める。」とありますが、委員長及び副委員長の選出についてどなたかご発言はありませんか。

【西川委員】事務局の方でどなたか腹案がありましたら、お願いしたいと思います。

【事務局（武市）】はい、ただ今、西川委員から事務局はどの提案をいただきましたが、いかがでしょうか。

（拍手）

ありがとうございます。

それでは、事務局からの案をご提案申し上げます。

委員長は、前任期で委員長を務められた池田委員に引き続きお願いしたいと思っております。また、副委員長につきましても、同じく浅井委員にお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

（拍手）

ありがとうございます。それでは、委員長は池田委員、副委員長は浅井委員に決定しました。よろしくお願いいたします。池田委員、浅井委員につきましては席の移動をお願いします。

それでは、次第の 3 「委員長あいさつ」をお願いしたいと思います。池田委員長よろしくようお願いいたします。

【池田委員】池田です。

よろしくお願い致します。

今日の議題のところにあります。入館料の見直しに行くために、報告事項の 2 番目の新しく小牧山の歴史館が小牧市内の歴史から変わるところを今日は説明があると思っておりますので、それに基づいて、館がどんなふうになったらいいかというような考え方を皆さんにお伺いしたいと思いますので、よろしくお願い致します。

なるべく 1 時間で終わるように頑張りたいと思っておりますのでご協力お願いいたします。

【事務局（武市）】

はい、ありがとうございました。

それでは早速議事に入ります。

ここからの進行は池田委員長お願いいたします。

【池田委員】はい。

それでは、次第の4「報告」に入ります。報告(1)「令和3年度の運営状況及び令和4年度の事業計画について」事務局からの説明を求めます。

【こまき市民文化財団(清田)】歴史館の令和3年度の事業について説明させていただきます。

令和3年度は新型コロナウイルスの影響を受け11月に実施予定でした小牧山城茶会はやむを得ず中止となりました。

甲冑試着体験は4回開催予定でしたが雨天により1回中止となり、3回実施しました。

ジュニア企画展「小牧山に咲く草花たちの小さな写真展」につきましては、8月7日から9月26日までの開催予定でしたが緊急事態宣言に伴う利用停止より、8月7日から8月26日と10月1日から10月31日の開催となりました。

また、一般向けの企画展「愛知が誇る!日本100名城・続日本100名城」は1月22日から3月21日まで開催しました。

令和3年度の入場者数は43,504人で、前年度より4,026人(前年比10.1%)増加しました。これは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和3年5月12日から6月20日までと令和3年8月27日から9月30日まで臨時休館したことにより開館日数が275日となりましたが、昨年度も同様に利用停止期間が発生したことにより255日の開館日数となり20日間増加したことによるものです。1日当たりの平均人数は158人となり、155人の昨年度を上回る結果となりました。

続いて、令和4年度の歴史館の事業計画を説明させていただきます。

春と秋に甲冑試着体験を各2回、秋に茶会を1回予定しております。また、夏休み期間中にジュニア企画展を、冬季に一般向けの企画展をそれぞれ開催いたします。忍者衣装試着体験は引き続き土曜日、日曜日に実施いたします。以上です。

【こまき市民文化財団(鈴置)】続きまして、令和3年度れきしるこまきの事業報告をさせていただきます。

事業では発掘調査の成果発表として、4月に「小牧山城最前線!令和2年度発掘調査速報展」、2月から3月にかけて「小牧山城最前線!令和3年度発掘調査速報展」と題してパネル展を実施しました。また、小牧山に縁の深い尾張徳川家が、明治期に旧尾張藩士たちを招待して催された小牧山園遊会をテーマに「尾張徳川家と小牧山園遊会」と題して企画展を実施しました。当時の創垂館や小牧山園遊会の写真、小牧市や徳川黎明会が保管する関係資料などを展示することで、小牧山園遊会の賑わう様子や創垂館の概要について、詳しく紹介することができました。

この企画展に合わせた記念講座として、創垂館の歴史的な意味や建築物としての価値をテーマとする「尾張徳川家と近代迎賓施設(創垂館)」を実施しました。創垂館保存修理工事を監督する名古屋工業大学名誉教授麓和善氏に講義いただき、参加者は熱心に聴講されていました。この他にも、小牧・長久手の戦いに関する講座など、合わせて4回のれきしるこまき講座を実施しました。

ワークショップは7回開催し、前年度の2回より大きく増やすことができました。発掘品に触れ、復元作業を疑似体験するもの、小牧山内の遺構をたどるフィールドワーク、

小牧山城本丸石垣のジオラマ作り、小牧山で集めた木の実で足軽人形をつくるものなど、子どもから大人まで楽しく小牧の歴史を学ぶとともに、自然に触れる機会を提供しました。

令和3年度からの新しい取り組みとして「夏休み自由研究☆レキシルお助け隊」を企画し、職員とれきしるガイドボランティアが子どもたちの自由研究につなげるサポートとして、小牧山の歴史や自然に関する素材を一緒になって探し、研究を手助けすることで子どもたちの小牧山への興味、関心を高めました。

以上が令和3年度の事業報告でございます。

続いて、れきしるこまきの入館者数の昨年度対比について、説明いたします。

開館3年目となる令和3年度は、利用人数が34,574人（レクチャールーム利用含む）で、前年度より1,374人（前年度比3.8%）減少しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のための施設の利用停止日数（令和3年5月12日～6月20日、8月27日～9月30日）が、前年度より減少し、開館日数は275日と前年度より20日間増え、有料の入館者数は926人増加したものの、レクチャールーム利用者が2,295人減少したため、全体として前年度を下回る結果となりました。

以上が入館者数昨年度対比についてのご報告でございます。

令和4年度れきしるこまきの事業計画について説明させていただきます。

まずは、すでに実施済みではありますが、ゴールデンウィーク企画として「石垣チャレンジ」、「みる！しる！小牧山」を実施いたしました。実際に触って組み立てて石垣の構造を学んだり、山の中を散策しながら小牧山のことについて知ったり、親子で体験できてとても喜ばれた企画でした。

次に予定しております6月4日からの企画展ですが、「令和によみがえれ！信長の城！小牧山城石垣復元パネル展」と題し、昨年度に完了した石垣復元整備の成果について、発掘当時の様子とともにパネルにて展示します。8月31日まで開催し、開催後も一部パネルを常設して山頂の石垣へ誘致するような取り組みをいたします。9月にも企画展を予定しております。内容といたしましては、徳川家康にちなんだ企画展を予定しております。期間は9月16日から11月6日までです。

続いて講座についてですが、今年度は5回開催します。7月2日に予定しておりますトークセッションでは、「小牧・長久手の戦い」にスポットを当て、戦いゆかりの地の学芸員を招聘し、「小牧・長久手の戦い」の入門編として実施します。他、オリジナルすごろくを作る体験型の講座や大学の講師の方をお招きする講演会、講談など、多様な講座を予定しております。

夏休みには、昨年度好評でした「自由研究レキシル☆お助け隊」や「発掘品にふれてみよう」「小牧山城石垣ジオラマをつくろう」を引き続き実施し、子どもたちが小牧山と触れる機会を提供します。

また、秋にはフィールドワークとして、ゴールデンウィークに開催した「みる！しる！小牧山」の大人バージョンとして「大人のわくわく史跡探検」を12月に予定しております。

ワークショップについては、昨年度大変好評でありました「木の実でつくろう足軽人形」や「発掘品模型と花押缶バッジをつくろう」など親子で楽しめるものから大人対象の「大人版、発掘教室」など幅広い年齢層が参加できるものを予定しています。

以上がれきしるこまきの令和4年度の事業予定でございます。

今後多くの方に小牧山の魅力をお伝えする幅広い事業を展開し、れきしるこまきの認知度向上とともに小牧山の情報発信に努めてまいります。

【池田委員】それでは皆さん、ご意見ございましたらお願いいたします。質問、ご意見、両方。

西川先生お願いいたします。

【西川委員】体験とか講座とかいろいろあるんですけど、コロナ関連で、市としては、いろんな講座をするときのいろんなガイドラインみたいに、どういう定員で取り組んでいますっていうのは、その辺のところは、多少は以前よりは緩くなっているのか、いやこういう状況ですっていう、例えば今年度ではこういう方向で考えていますぐらいを、ちょっと教えてください。

【事務局（武市）】コロナの感染症対策については、その時の状況、国県等から発令されるような、非常事態宣言ですとか、そういったものに対応して適切な対応をするということになっております。現在、厳重警戒宣言ということで、警戒が続いているような状況だということであるんですけども、これまでの知見が蓄積されてきたということもあって、適切な感染症対策をとれば、例えば、会場とか入場制限も会話がないうのは、100%ということ、運用がされるといったことも、昨年度よりは、今の方が若干ちょっと緩和されてきているなというところがあります。

状況が今後変わるかもしれないですけど、今のところはそういうような若干緩和されているような状況ということではあります。

以上です。

【池田委員】ほとんどないということですね。

【事務局（武市）】そうですね。

【池田委員】中に入るときにマスク、入口の消毒とマスクですね。

【富嶋委員】富嶋です。

学校がやっぱりコロナ直撃を受けているところがあって、特にれきしるに行きたい、歴史館に行って学習したいっていう時期ってどうしても遠いところは校外学習と重ねてくる、そうすると4月から5月、それから9月か10月って格好になってきます。

時期的にはもう去年は直撃を受けたので、ほぼ4月はもう、校外学習ではバスにも乗れずという状況があったし、9月についても、第4波でしたか、その影響で、陽性者が増えているっていうような状況で、各学校もちょっと制限入れながら、それこそ修学旅行も野外学習もどうしようという状況でしたので、やっぱり足が伸ばせなかった部分もあります。

今年度もその流れがあって、各校大分対策も蓄積されてきて、バスでもいろんなところ行って、というふうになってきたにしても、やっぱりこの4月は、ちょっとやめておこうかっていう学校も多々あり、本校でも結局、バスを例年使っていたのも、歩きでいく、そうするとどうしても、一色小からだ、小牧山までは足を伸ばせないという状況が、ありました。ということで、10月以降わかりませんが、状況がどうなったのかわからないにしても、対策をとっていろいろ学校の活動を教育活動を進めていこうということが言われて、今動いてるところです。この9月10月あたりはそれこそ校外学習で足を伸ばすっていうところは、各校できていけるかなというふうに思いますので、希

望的観測は大きいですが、今度の秋それから来年度のスタートの春あたりでは、校外学習その他で、各学校から子どもたちがもう見に行けるっていうふうになっていくといいなと思いますし、そういう呼びかけをしたいなというふうに思っております。

【池田委員】ありがとうございました。

他にございませんか。

甲冑の試着会は、4月はあったけど秋がなかったということでもいいんですね。秋が大体予定がいつなんでしょうか。

【こまき市民文化財団（清田）】去年は、4月29日が雨で中止になって、3回になりました。雨が降っても、館内でやろうかという話になってます。

【池田委員】わかりました。

これ、抽選でしたっけ。

【こまき市民文化財団（清田）】いや、先着ですね。以前は、来る者拒まずで、どんどん受け入れていたのですが、このコロナの状況になって、一応12着、午前中着ただくのがマックスで、そのあと、除菌・殺菌して、1回着たら乾かして、午後に備えて、乾いたものを午後また順序で着るっていう形で、最大で24名さんしか試着できないのですが、そういうことを考慮しております。

【池田委員】ありがとうございました。

【こまき市民文化財団（清田）】健康チェックと問診をしまして、大丈夫ですかっていうことと、熱を測って、37.5度以下っていうことで着ていただいています。

れきしるでみる！しる！小牧山って、ゴールデンウィークとかいろんな企画にあるんですけど、これは実質何をやってるのでしょうか。

【こまき市民文化財団（鈴置）】みる！しる！小牧山は、小牧山を実際に歩いて見て回るってようなイベントなんですけれども、復元された土塁であるとか、実際の家康の時代の残っている遺構を見たりだとかしています。

【池田委員】はい、わかりました。

歩いていくってことですね、何人ぐらいで？

【こまき市民文化財団（鈴置）】こちらは定員20名でそろったら行くという形です。

【池田委員】申込制ですね。20人でスタートの時間を決めて一斉に行くということですね。

そうすると外だからあまりコロナ感染対策もいらないうということですよ。

【こまき市民文化財団（鈴置）】そうですね、マスクは着用していただいて、受け付けするときに、検温と手指消毒をしていただいています。

【池田委員】あと、その次の出前授業はどこへ行くというか、相手はどこでしょうか。

【こまき市民文化財団（鈴置）】出前授業は市内の小学校です。歴史を学び始める6年生です。

【池田委員】小牧山の歴史館の方でやっている夏休みの、小牧山を野鳥たちや、去年なされた草花の対象はどのぐらいか。学年とかは？

【こまき市民文化財団（清田）】相手の対象は一応小学生です。

【池田委員】写真展だから写真を撮ってもらって貼るわけでしょう。

【こまき市民文化財団（清田）】自分達が撮ったものとか、監修をお願いしてる清水豊先生に、いただいたりしています。

子どもが撮ってきたんじゃないなくて、撮ってあるものを見ましょうということです。

【池田委員】子どもたちが、そこで何かを撮ったのを発表するというのではなくてパネル展示みたいな感じですよ。

【こまき市民文化財団（清田）】はい。

写真はパネルにして展示します。

【池田委員】ありがとうございました。

対象がわからなかったの。これも見に来る人たちは、1か月半くらいあるから大丈夫ですね。

あとは、小牧山茶会というのは歴史館でやるんですか。

【こまき市民文化財団（清田）】ちょうど後ろの玄関の東の空間でやります。椅子が6つです。

今コロナの関係でそこに2人ぐらいで、12人ぐらいが1回ってことですね、

雨が降ったときも、テントの中で雨天でもやるということです。

雨天実施ってことで、200人までいこうということですから丸1日、大体10時から3時ぐらいです。

【富嶋委員】富嶋です。

れきしるの4年度の事業計画についてなんですけど、7月のれきしる講座で、学芸員が熱弁というところで、トークセッションですから、一堂に会して、お話を、もう意見をやり合うという感じになりますね。そうすると、講師が、長久手の方、岩崎城の方、大口の方で、要するに、また小牧が薄まって、小牧・長久手の合戦の長久手をピックアップされる岩崎城もそうですし、結局長久手も合戦に繋がるものなんで、それから大口から一宮で戦いをまたやってるので、その辺りのことがピックアップされて結局小牧はただけみたいなことになっちゃうと、嫌だなっていうふうに私は思ってるんです。

小牧が抜けなかったから長久手の合戦が起きたわけですよ。

小牧がさらに抜けなかったから、しょうがないから、西の方で戦うということになったわけですから、小牧が動かなかったことは、歴史を動かしたっていう、その辺の価値が再認識できるような、セッションになると、ものすごくありがたいなと思っています。小牧で子どもたちに教えるにしても小牧が重要だったのだと。それこそ家康が見い出して小牧山に陣を敷こうとなったわけですから、そのあたりの価値を伝えたいなとすごく思います。

別に今年に限らず、今後とも、そうしたきっかけにもなると思うのですが、もしそういうふうに流れると、また今まで通りの価値づけになっちゃうから、ちょっと残念なので、そこでちょっと小牧が価値づけられるように、乗っていただけていただければありがたいなというふうに思います。

【池田委員】ついでに、れきしるには学芸員はいますか？

【こまき市民文化財団（鈴置）】昨年度末で、1人辞められてしまって、今はいない状態です。はい。

【池田委員】配置しない？

ごめんなさい、これは事務局に聞きます。配置しない、学芸員を常に置かないという方針を聞きたいんだけど、たまたま今いないのか、あれば入るけど、なかったらそのままでもいい、みたいなどっちが方針としてこれ立っているんでしょうか、お願いします。



【事務局（武市）】これはですね文化財団の経営方針なもんですからちょっと私どもの方では。

【池田委員】学芸員はもう丸投げってことね。小牧山のれきしるも歴史館も。

【事務局（武市）】そうですね、指定管理の中で文化財団の方をお願いをされていて、その中で、そういった方を配置するかどうかっていうのは、条件としては入れてないもんですから、市としては置いていただきたいというふうな思いはあるんですけども。

【池田委員】その希望って書かれたら？

【事務局（武市）】そういうこともあるかと思えます。

【池田委員】はい。

市としてはおいていただきたいけど、もう文化財団の方の判断でということですよ。というのは今ここでトークセッションやるときに、小牧市の代表が出てこないって先生おっしゃったんだけど、その通りで、岩崎城っていうのは日進の岩崎かな。

【西川委員】そうです。

【池田委員】どちらかに学芸員を置かないと、ちゃんとしたことが言えないんじゃないか。文化財団にお任せするのはいいけど、中の実施体系というか、運営委員会で決めていたものが、こまき文化財団に直接学芸員行くものではないと思うので、計画は向こうからきてそれに対して何とか言えるけど、いるんじゃないのかなと思っています。

【浅井委員】浅井です。

お願いします。

今先生おっしゃられた、一つキーワード、なぜ小牧山なのか。これが一番テーマだと思うんですよ。それをはっきり明確にしないと、僕の知ってる小牧山は高速から見る小牧山なんです。小牧にある城。山の上に立ってる城っていう価値観しかないんですよ。ただ、これから必要なのは、アイデンティティーが必要な時代になってきますので、今先生おっしゃられた小牧が動かなかったから、なぜ小牧がそういうふうだったのか。そこが一番ポイントテーマになってくると思うんです。

それを大事にして今の学芸も入ってくるという形の何か一つこうポイントとして小牧山城、山城の、何が何なのかっていうことを明確にされてそれにこういろんなものをつけていく、という形の成り立ちがこれからの姿じゃないかなと思うんですね。娯楽施設ではなくて、アイデンティティーという形のような気がしました。以上です。

【池田委員】ありがとうございました。これまでにします。

これで終了したいと思いますので、報告の2番のところに進めたいと思います。

小牧市歴史館及び小牧山城史跡情報館の展示改修について事務局より説明をお願いします。

【事務局（伊藤）】それでは報告の（2）小牧市歴史館及び小牧山城史跡情報館の展示改装についてご説明いたします。

資料2をご覧ください。昨年度作成しました、『小牧市歴史館等展示改装基本方針』であります。

1枚めくって1ページをご覧ください。

「展示改装の基本的方向性」につきましては、令和3年度より行っています、小牧山

の山頂部での史跡整備工事により、今後多くの方が小牧山にお越しいただき、迫力のある石垣の姿をご覧いただけるようになること、また、令和5年よりNHK大河ドラマ『どうする家康』が放映され、「小牧・長久手の戦い」で、家康が陣を敷いた小牧山にも注目が集まり、全国から多くの方々が来訪されることが予想されることなどから、小牧山への関心がますます高まる、この機を活かして積極的にPRし、多くの方に訪ねていただく取り組みの一つとして、小牧市歴史館及び小牧山城史跡情報館（れきしるこまき）のリニューアルを行うものであります。

「展示整備の方向性」につきましては、史跡小牧山でのガイダンス機能を、山頂の歴史館と麓のれきしるこまきの2か所で相互補完し、来場者のニーズに沿った展示内容の整理やデザインの統一を図ることといたしました。

そして、「展示の基本方針」としましては、歴史館では、「子どもから大人まで理解できる、戦国時代の小牧山城の展示」とし、信長が築き、家康が改修した小牧山城について分かりやすく展示、また眺望を活かした展示とすることを基本方針としています。れきしるこまきでは、「より詳しい小牧山城の最新情報を周知する展示」とし、小牧山城の発掘調査や整備についての最新情報を、企画展示などにより随時更新するとともに、小牧・長久手の戦いに関する展示の拡充することを基本方針と決めました。

2ページをご覧ください。

歴史館の1階から4階までの、おおまかな展示テーマを示してします。1階は多目的・交流スペースとし、近代の小牧山を紹介するコーナーや休憩スペースを設けます。なお、1階は入場無料で、2階以上が有料展示エリアとする予定です。

2階は戦国フロアとし、信長、秀吉、家康と小牧山との関わりや小牧山城の紹介、小牧・長久手の戦いを分かりやすく解説する展示、例として地形模型にプロジェクションマッピングを投影し、部隊の動きや戦いの流れを紹介する展示設備の新規制作を挙げております。

3階は信長・家康フロアとし、例として映像ディスプレイにより信長や家康についてのクイズや関連小説、映画等の紹介を挙げております。

4階は展望室から広く見渡せる眺望を活かし、織田信長が築いた城下町や「小牧・長久手の戦い」の際に築かれた砦跡、さらに周辺の城郭との距離感を体感していただけるような展示にしていきたいと考えています。

3ページから5ページは、各階のエリア構成や平面計画、リニューアルイメージ図を載せております。

最後に6ページをご覧ください。

小牧市歴史館の展示改装のスケジュールにつきましては、令和4年度の前半に実施設計を行い、秋以降から現地で展示改装し、令和5年3月末に完了する予定です。また、れきしるこまきの展示改装のスケジュールにつきましては、令和4年度中に映像の制作等を行い、歴史館と同じく、令和5年3月末に改装を終える予定です。

れきしるこまきの展示改装につきまして主なものとしましては、小牧・長久手の戦いに関する内容を充実させるため、常設展示室の入口にある城郭シアターに、小牧・長久手の戦いを紹介する映像を制作し追加する予定です。

説明は以上となります。

【池田委員】今までの小牧市歴史館とれきしるこまきの住み分けとしては、歴史館が小牧市内全体の歴史でれきしるこまきは小牧山そのものに関する展示説明という住み分けをしてたんですけども、その住み分けをやめて、両方とも小牧山に関する形にまず変更するというのが一番大きい変更点なんですけど、これはどっかでも多分承認されてるのでしょうか。わかることがないと言え、ないかもしれないんですけど何かありますか。

【浅井委員】浅井です、よろしくお願いします。

ちょっとまだ全体像がよくわかりませんので何とも言えないんですが、さっき言ったやっぱりなぜ小牧山を使ったのか、その信長の時代の、築城の初めの山城形態の、初期の段階初めかわかりませんが、その時に考えた小牧山の利用、そして、さっき先生おっしゃられた、小牧・長久手の戦いのときの、なぜ動かなかったか、こういうのがちょっとわかってくるとコロナが出てきて、戦争始まって、疫病が来ると絶対時代変わるんですよね。

そういうときに何か指針として、こういう考え方で動かなかったんだ、こういう考え方で布陣したんだ、もしくは築城したんだっていう何かこの小牧自体の土地の力を表してあげると、非常にこの小牧そして犬山城が、名古屋城がある、この関係性も含めてすべて小牧のその価値って価値と言ったらちょっとあれなんですけど、今高速がいっぱい通ってるとかっていうふうで、企業がいっぱいあるというそういう価値感であると思うんですけど、その時代の小牧の土地の力っていうのをちょっと見せていただくと、みんなすごく喜ぶんじゃないかな、と思うような気がします。

以上です。

【池田委員】先ほどもされた話なんですけど、小牧山の城が1個あって、信長の城なんですけども、他に、周辺に例えば、こちらじゃない岩崎城や、砦っていうか城みたいな。それから、さっき言いました上末にもあったし、これね、今の子どもたちにしてみれば名古屋城がぽつんと1個だけあって、他に何もなくてっていう風ですよ。

それとおんなじ状況がこの小牧山の城の時もあったのかっていうとそれはもう全然違う話で、名古屋城というのはもう、家康が、名古屋にまちをつくるということであそこにお城を作って、完全な都市計画に基づいたまちだったわけですよ。

ところが、小牧だとか、最近この辺りの周辺の小さい砦のような、お城がたくさんあって、例えば名古屋だって末盛城って城があったわけですよ、もう今はないんですけど、そういうような細かいものがあつたというのはここの中に全然ないんですよ。

小牧山1個ポツンとあって、確かに信長は城下町をこっちの方に作りたいという形で計画したかもしれないんですけど、ここ掘って、その発掘で出てきたんですか。この辺出てきたんですよ。何とかの町だったということが、そういうようなことは、これもここにちょっと小牧や小牧の城下町のことって書いてあるんですけど、そういうような本当にあつたことをできたら、ここに出してもらいたい、展示として示してもらいたいので、プロジェクションマッピングもいいんですけど、それがないと。

【西川委員】そうですね、さっき、展望エリアのところ、ある程度当時のあれが俯瞰

できるように、というようなことを言われたんですけども、実際は、この小牧・長久手の戦いそのものは、もっと前から遡れば、犬山の方から起こった争い、これも、もう当然信雄方と豊臣方の争いがもう、あそこの羽黒の八幡林であったんですよ。

その時に争いが、小競り合いがあって、最終的にそこでやり合ったから、秀吉がわざわざ犬山まで出向いてきて、信雄方に対して、家康も援助する形で、ここでにらみあったということが、小牧・長久手のスタートですよ。

今言われたように、例えば、当時の布陣としては、豊臣方は犬山城もあるし、それから羽黒城もあるし、あそこの小口城もあるし、やっぱり北方にいっぱいあったんです。

大分こっちまで来て、岩崎、小松寺、上末というのが、豊臣方がだいぶ来たという布陣があって、ほんで、家康の方は、今度はそれを防ぐために、ここ本陣として小牧山にあって、もっと言えば、田楽もあったし、宇田津もあったし、というようなことで、やっぱりそのにらみあったときの布陣がある程度お城も抱えながら、砦としても抱えながら、対峙したというそういう、なんていうかスタート時の全面後方に入る前の布陣がわかるようなものが、よりきちんとあってくれたらということ、池田先生は言われたことだと思うんだけど、その辺のことをはっきり、せっかくやるなら、僕のイメージとしては、何かれきしるが、上と下両方と重なって作るとか、これも大河があるから、2023年度の終了まではそれで行こうという、方針はわからんこともないし、それで多分にぎわうからいいと思うんですけど、一番心配なのは、初めちょこつと言われた歴史館としての、あれが、大河が終わった後実際どうなるかだ。ずっと、大河のためについていうことでやって果たして良いものか。これは別の会でもあったんですけども、せっかく小牧全体の歴史のあれが、歴史館としてあったのが、れきしるを作るときに、文化庁の補助を受けるために、小牧山の史跡小牧山の歴史的価値のあるものしかあそこには入れられないということで、あそこに市のいわゆる歴史的な変化の全体像を、入れることはまかりならぬということで、下のれきしるができたということは、下のれきしるは家康、信長の史跡小牧山としてのものに特化したものが、れきしるに作られたんだよね。

それなのに、なおかつ歴史館、せっかく、大河が来るから、その時に、小牧山を全国的にPRしようというために、いわゆる歴史館そのものが、もうなんていうか、確かに小牧山は、市民にとって見れば、小牧市で代表される一番トップのものなんだけども、それをPRするために大河を利用することは、それもありがたと思うけども、何となく、小牧市の歴史館というものの定義が、ちょっとこれによって大分薄れちゃって、上と下両方ともイメージができちゃうから、果たしてこれはどうかなって。これはもう変更できないので、終わった後、きちんと昔の歴史館の価値をちゃんと戻すとか。もちろん史跡小牧山としての価値観はれきしるの中で工夫をしていろいろやっておけば、ずっと持続できるはずだから、そここのところでまた検討してもらえるといいかなということ。ちょっと余分なこともちよつと言っちゃいましたけども、確かに、小牧長久手の戦いのことについて、細かなことまではっきり当時を再現させるような工夫を講じるといいかなということだと思いますね。

【富嶋委員】小牧が関わるのが本当に小牧・長久手の合戦、それから、信長の城しかない、今までは信長の城はそれこそ美濃攻略の腰かけで小牧・長久手の合戦はにらみあってたから、小牧山発掘の成果でどんどんすごい城であった、しかも城下町であったっていうところは、やっぱり価値づけをもっとしていきたいなと思うし、その価値づけを、

人を呼ぶとかそういうことあるかもしれないですけど、小牧市民にしていきたい、子どもたちにしていきたいとかがすごくあって、僕も、社会の教員でこんな話もするんですけど、若い先生あんまり知らないし、あそこは砦だからねと言ってもそれを知らない。そういうところもあるな。この特殊展示は期間限定でもあるかもしれないけど、その間に、ある程度その価値を位置付けられ、価値づけられて、誇りに思うみたいなどころができてくれば、いいかなというふうに思っているの、ちょっと期間限定で、特化するの、賛成は賛成していますので、ぜひ信長の城はすごかったんだよということは、大分全国区になってきましたけど、小牧・長久手合戦で小牧の価値がすごかったんだよっていうところを示すような展示資料、小競り合いでもあったんだよってことすら知らないですから、本当に各校区に幾つも砦があるので、もう本当に勉強で歩いていけるとこに砦があるので、そういうところが近くに、僕の学校の近くにある、僕の町にあるっていうところを、小牧市民に知らしめして、ただ小牧に誇りを持つような感じのきっかけ、いいきっかけになればなと思っております。

ぜひ小牧の陣の展示をよろしくお願いします。

【池田委員】 富嶋先生がおっしゃったように、砦ってものの概念って意外とないんですよね。

だから、砦がどこにあったのかって例えばこの二階の展示でも真ん中にこれが小牧山城だとこの階段のところ、ここから歩いてこっちの方に行けば何とかがあるというのを、天井ではなくて、足元に書いてもらって、距離感、計算してもらってここで、例えば犬山城はもうあったんだしたら犬山城はここにある。

名古屋城はないんで、名古屋城はなかったんだよということの、子どもさんたちわからないんですよ、名古屋城もあったのに、何で小牧山みたいな感じになっちゃうかもしれないし、清須城はその頃はどうなったのかってこと、清須城全部ありましたよね。名古屋じゃなくて、大きな城として清須城があったんだとか、そういうのをね、このジオラマで壁だけじゃなくって、床を使って、この真ん中の階段登ったここが今の小牧山なんだと、ここからこっちの方向がありますので全部方向のこっちの方向に行けば、何とか砦があるし何とか城があるっていうの、この床にテープで書けるでしょう。今、ああいいう形で、少し人間が踏んで、そういうのもこれ使った方が、側面だけでは、これすごい、展示スペースが少ないんで、ちょっとそういうことするのに、富嶋先生すごいご存知だし、西川先生だっのご存知なんですよね。

この辺りの細かいこと、だから、その次、実際のこの小牧の中で、その1500年代後半から1600年初どんなものがあったのか、それから、お寺って何だったのかとかね、お寺ここにあるっていうそういうのも、ちょっと寺か神社がわかんないんですけど、そういうようなこともきちんと押さえられる人が、これ展示しないといけないんで、時間ないんですけど、文化財団にバーンと丸投げして業者に、そこからこういうのが出てきましたよっていうんじゃないんで、かなり綿密にして、ご意見、こちらからの意見を出さないといけないんで、ちょっと学芸員さんがいないということでそれを、学芸員さんがいればそれを毎度チェックして、こういうふうってにいえるんだけどいないので、どうされる体制にするのか。そういう体制みたいなものもちょっと事務局の方で考えていただいた方がいいと思う。ただ、本当に丸投げして向こうの業者からこういう意見というのじゃなくて、向こうの業者にもたくさんこういう案を入れとかなないと、業者も仕事、

結構話作っちゃうんでね。

【浅井委員】昔の文化振興課時代に、文化振興懇話会というのがあったんですね。その時に小牧について小牧山も含めてみんなで話し合いましょうと、最終的に出てきたのが東海総研？というのが出てきて、僕は質問しました、あなたたち小牧に何回来たんですかって。3回ほどです、と。そういう質問じゃないんですよ。どれだけ愛しているかが問題で、さっきも先生方、すごくこれこそ宝物だと思うんですよ。

ただそういう方をどんどんこう入れて、本当の言葉でしゃべってくれる。本当に小牧いいなと思うし僕は小牧出身なんで、さっき言われた小牧山城をすごいって思いたいし、それを子どももみんなそうだと思う。今流行ってるキングダムにしろ、何にしろやっぱりそういうのがあると思うんですよ。そういう夢のある世界にちょっとこういかれるのかなって思いました。以上です。

【池田委員】ありがとうございました。

ということで、ちょっと展示内容は、その当時の小牧市、今の小牧市とか小牧の周辺のところの、本当にこういう状態だったんだよと。

私、れきしるの時も言ったんですよ。床に作ってって言ってる。子ども達は床踏んづけても、高いとこ見ないんですよ、子どもたちって。足元はこうやって、歩いて見えるんだけど、だから子どもさんたちに知らせ、子どもから大人までって言ったら、子どもがまず気づいて大人に、これ何だろうといたら、大人が「ああ、あれね」っていうふうになる、その子どもの部分のところの目線って一体どこを向くのかっていうのもちょっと考えて。だから、そうやって足元にそういうふうにあって踏んづけてこのぐらいのところっていうのがわかるようなそういう本当に着ってね、わかりません。

実際にどんなものだったのか、それで、そこに着ってのをに入れてやると、プロジェクションマッピングでこんなようなものだったとかね。

それから、今こうなるとかその今の現状の写真は幾らでも取れると思うんで。それから、その当時はこんなふうだったっていうのを作ってもらえれば、立体的に物が見える、今期間限定なのかどうかこれはわかりませんが、とりあえずリニューアルし直さんだったら、徹底的にお金が取れるような、行って面白かったよというようなものにしていただきたいなと思います。

よろしくをお願いします。

【事務局（武市）】事務局からすいません。

今いろいろなご意見をいただきまして本当にありがたいなというふうに思っております。

2点ございまして、まず1点、歴史館の改修に関して、今の歴史館として、小牧の通史的な縄文時代から近代までというところについては、一旦見直して本当に戦国の小牧山城に特化するというのがございます。今委員の皆様からいただいたように、小牧山城だけをピックアップして小牧山城がわかるかということと必ずしも絶対そうではなくて、皆等その前後の日本の歴史の中で振り返ってみてどういうターニングポイントだったのか、どういうそのクロスロードとなったのか、小牧山がどういう意味を持ったのかっていうところを、来館者の方にわかっていただけのような、展示にしたいなというふう

現在検討しておるところであります。

また、小牧の地理的な特異性ですとか、その立地、眺望などは、小牧山が選ばれた理由というところになっていると考えられるものですから、そこを生かした展示をしていきたい。また、4階の展示の展望室については、距離感ですとか位置関係がわかるような、足元にそういった展示もできるといいなと検討をしているところです。

また、検討が進んで参りましたら皆さんも見てくださいたいと思っております。またその歴史館についても、小牧の歴史というのは、戦国のたかだか50年の話ではもちろんなくて、色々な文化財を小牧市として紹介する場面がなくなるというのは本当にそんなことは、絶対あってはならないというふうに私も思っていますので、そこはまた別に確保していきたいというふうに思っております。また決まって参りましたら、皆様にもご報告をさせていただきたいなと思っております。

よろしくお願いいたします。

以上です。

【西川委員】いいですか。

小牧山がすごく価値があるというのは、この件を初め、いろんなことがわかってきているんですけど、まず第一に信長がここに作りましたね。

信長が作った城というのは、それまでの、山城的な土の城よりではなくて、天然の岩や石垣をやってという、例えば江戸時代の石垣でできた城の元になるスタートだという見方が、まず小牧山できるんだよね。

それからもう一つは、小牧山の南に城下町をきちんと整理して作りましたよね。それでこの計画的な城下町も、この後、いろいろ各地で出る、新しい城下町の元になった情報、たまたま美濃に美濃攻めが成功して、わずか4年で岐阜に移っちゃったので、城下町が廃れたけども、そういう意味で、石垣を初めて使った城下町をひっくり返した、小牧山城。信長が作ったそれによって僕は本当は教科書がちょっと作り変えられるぐらいの内容の価値のあることだったというふうに、自分は認識してるんだけど、もちろん全国的にはそこまでは変わらないけども、そういう点が一つあるってこと。

そして、今度は小牧・長久手の戦いに関しては、家康が陣取って対峙したということから始まって、もっと言えば、この小牧山は家康がこの戦いによって、優勢で終わったという、縁起のよい城ということで、すごく徳川家にとってみれば、長い間しっかり守って、大事に管理しなさいという形で、小牧山が保存されたということで、縁起の良い城なんだよね。

そういうことで、夏の陣、冬の陣の大坂で決戦が決まった関ヶ原で、対戦して、家康方が勝ったという、それより前に、小牧の長久手の戦いの時に、すでに家康が、江戸城を作って長い安定した江戸時代をつくるもととなったのは、この小牧にその元があるという見方をしとるという点でも、すごく意義があるんだけど、その辺のことも含めて、展示の中で、皆さんに「あ、そうだったのか」ということが伝わるようにやって欲しいなと思います。

【池田委員】小牧山城ってどういうものかって価値が、近世の城郭と、城下町の元を作った信長のところ。そして、家康にとっては、家康の天下を使うつまり江戸時代を作るための、スタートって変だけど、そこの一つの大きなポイントになったところでその二つがきちんと押さえられた展示だったらいいってことですよね。基本的に。ただその、

それを抑えるためには、その時代が信長がお城を作った頃の、このあたりはどんなふうだったか、それから、家康がそこに布陣したときの周辺はどんなふうだったか、その二つの時間層が多分いると思うんですよね。ポイントとしては、その二つの時間差をどういうふうに、2階と3階に振り分けるのかということも、ちょっと考えていただきたいということですよ。

いいですねそれで先生。

新しい展示についてはこういうふうな形で終わりたいと思います。今までの、古代のところから、戦国を抜いた前後のところすべてを展示するところは確保してくださるということだと思うので、よろしく願いいたします。

それでは次の5番目の議題1、「入館料の見直しについて」に入りたいと思います。

事務局、説明をお願いします。

【事務局（伊藤）】小牧市歴史館及び小牧山城史跡情報館の入場料の見直しについてであります。

資料の3をご覧ください。まず、見直しの背景といたしまして、近隣同類施設や最近設置された施設の料金設定と比較をすると、小牧市は低料金であること、また、先ほど報告をさせていただきました、歴史館等の展示を改装する予定であることがございます。

2にありますとおり、現行の入場料は、両館共通で大人が100円、30人以上の団体の場合は60円、中学生以下は無料としております。

参考資料をご覧ください。3番、4番の「あいち朝日遺跡ミュージアム」や「しだみ古墳群ミュージアム」は最近完成した施設であり、入館料は「あいち朝日遺跡ミュージアム」は300円、「しだみ古墳群ミュージアム」は200円と設定されています。

また、小牧市の同類施設と考える5番の岐阜城及び岐阜城資料館や8番の大垣城及び郷土館は、それぞれ2施設共通券で、大人200円であり、小牧市の2倍の入場料を設定されています。これらのことから、小牧市は近隣市町の同類施設との比較におきまして、低料金であることがわかります。さらに、年齢や身体障がい者等の条件により、割引や無料化される事例もあります。また、小牧市歴史館及び小牧山城史跡情報館の展示改修をし、今後来場者が増加することが考えられることや、この改修に約1億3000万円の費用がかかることから、見直しが必要であると考えております。

3、入場者数・入場料収入・維持管理費等の状況の表をご覧ください。直近3年の入場料収入と維持管理費の状況です。維持管理費に充てる入場料収入を少しでも増やすことで、財源の確保に努めていきたいと考えております。

これらを踏まえて、入場料の見直しについての意見をお聞かせください。以上です。以上です。

【池田委員】ありがとうございます。

見直した方がよろしいでしょうか。

ご意見ないですか。ちょっとこれは後にしましょう。

それじゃ先に、割引のことからいきましょう。

今やるべきとは、%は関係なく、今団体の割引のみで、あと身障者、高齢者はなし。子どもは中学生までですか

【事務局（武市）】はい。

中学生以下の方は無料になります。



【池田委員】中学生以下ねこれ。

中学生以下、今は大抵そうなので、無料でいいと。これはいいんですけど、あと他の割引で身障者老人それから70歳以上とか65歳以上とか老人と、それから割引の対象者って、身障者、それから老人、子どももタダだから。

【浅井委員】小牧市民とかね、そういう地域性のももあるかもしれないですね

【池田委員】でも市民の老人とか市民の身障者、やっぱそういうふうに書いてあるなんかここの何とかの市民はどうのこうのとか在住とか、どこかとタイアップして割引とか、いうのがありますけど、とりあえずこの割引制度っていうのをもう少し拡充があった方がいいのではないかということはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

じゃあ割引制度をもう少し拡充で検討してくださいってことで、どれだけするとかということとはまた別のことで、老人、市民、それから身障者等で考えてください。

これ、収入考えたんですけど大体毎年二つ合わせて300万円ぐらいしかないんで、これ1億3000万かかっても300万円では全然。それからこちらの維持管理費のところにもいかない、いくのかなあ。両方で5500万ぐらいかかってますよね。だから毎年、全然そこにも至ってない。

5500万の500万まで至れば、ちょっといいかなという感じもあるんですけど。

この辺りの最近はそのコロナもあって入場者数が少ないのかもしれないかもしれませんが、それでも、昔から大体300万円ぐらいしか収入がないみたいなので、ちょっとそれでは、元へ行ってないというところで、確かにワンコインはすごく楽なので、これ倍ぐらいまでですかね、とりあえずは、中身、その小牧山の展示内容がすごくすぐれて、これならばもっと出してもいいわと思うようなふうになれば、もう一声出るんだけど、とりあえず今の内容、今の現行の形で見直しかけるんだったら、せいぜい倍ですよ。

今のまま、とりあえずそんなに変わるとは思えないという、いかがでしょう。

ただ、中が本当に著しく変化したときには、もうちょっと考えてもよいかも。とりあえずあれば、後から上げてもいいと思うんですけど、とりあえず、それで、半額ですよ。

JAFの会員だと割引っていうのがあるんです。JAFのカードを持ってくと割引って結構たくさんあって、国立の美術館なんか皆あれ持ってくと、団体料金になるんですよ。それも、ここ今割引にないんですけどどうですか、観光協会いないけど、すいません。

【事務局（武市）】ごめんなさい。

こちら記載ないんですけどもJAFの割引は団体料金の適用で60円に、今もなっています。

ここ、他の施設もJAFについて記載してないのですが、そういったものも取り入れるところが多いですね。

【池田委員】あれすごい宣伝になるんですよ。

JAFの冊子か何かにもバーツと名前が載るんで、こんなのあるのみたいな感じだから、ただ車で来るからみんな車置くとことがないから悩んじゃうんですけど、とりあえずそれも今書いてないけどそれもちょうと入れといてありますよって言うておかないと。

今もう現行でやってるんですよ、小牧は。

【西川委員】あと小牧市って、わからないですけど、財政は、この近辺の市町なり、中堅都市の中では比較的良い方ですよ。

あんまり職員が言ったらいかんけどね。

歴史館にしろ、れきしるにしろ、公的なものとして作ったもの、本当は市が豊かであれば、もう税の財源を使って、皆さんが気軽に見られますよということも、ある面、小牧市の姿勢としては悪くないと思うんですけども、というのは、文化に対する財政というのは、国もそうです県もそうだけど、非常に低いんだよね。

それを逆の意味で、小牧はこんなにも投入して、こんなになってそんな多くないんだよね。

投入しているということは、逆にいい意味で価値はあると思うんだけど、僕もっと思うのは、清須にしても大垣にしても、これ行こうと思えばいけるんだよね。

ところがここわずか86メートルという標高だけでも、あそこまで、ぜひ上がっていかうという意識は、一般の人ほどどれくらいあるかということ、「あの上かー、ちょっと遠慮しとこうか」という気持ちになっちゃうので、僕は可能ならば、簡単に上がれる施設ができるといいけど、これ史跡だからそこまでできないので、今度は後はどうやってやるかっていったら、それこそ、いう、電動自動車のな、運行会社でもって、来訪者を送るといふそんなぐらいだけでこれは定期的に文化財課はやっていて、広報なんかでやって、送りますよ、という高齢者に限ってやってるんだけど、実績は1年に微々たるものだ、これを、本当はいい施設で、ぜひ上がろうという気持ちが、全体に芽生えてくれば、本当は、いつもれきしるの横にそういう車を置いておいて、上にまで上がっていけられる。車を市で本当配備できるといいと思うんだけど、実質利用がしばらくはそんなにいかんと思うんです。開店休業のときは多くなってあれだけど、そこぐらいまで本当はやれると、山に上がってみようというのは、現役の人はほとんどそんな関心はないんだ。だけど、リタイアして、ふとゆとりが出てきたご老人は上まで、行けたら行きたいなという気持ちはもてると思うんだ、けども、ちょっと登るには、2、30分かればいけるんだけど、ちょっと高いなというような意識の方もいるから、そんなことをクリアするように、そういうのも整備する或いは、設置するようなことも考えたら本当は、もっと本当はみんなが行けるといふか、海外行けばいっぱい山の上までロープウェイでいくだとか、ケーブルカーでいくだとかそういうことがいっぱいあって、それは、古い時代からもう作ったから、いいんだけど、今、史跡小牧山国の史跡だから人工物はつukれないですよ新たに。

だからそういう苦しい条件の中でどうやって、手軽に市民が上まで上がれるようにするかというようなことを考えると、そんな策しかないかなということをおもいますけど。

それぞれ前はちょっとやったらどう、要するに外につくったら駄目だから、私は、中で、防空壕たくさんあるから、戦後資産として整備して、本当は軍事的にすごく価値のある遺産だけでも、それを整備してちょっと奥までいくと山頂の真下行くからそこからエレベーターですと上がれば、簡単に上がるじゃないかという、どうかしたけど、もうこれまたすごい費用かかるから、ちょっと難しいと思いますけど。

何か気軽に、お年寄りでも障害者でも上がれる方策をちょっと考えてもらえるといいかなということをおもいます。

【池田委員】エレベーターって私本当に馬鹿にしてたんだけど、ザルツブルグのお城は近年作ったんですよ。

すっごい高速エレベーター、あっという間に上までいっちゃう。

あれ、史跡だよな。

砦かなんかの。

【西川委員】そう。だから、海外と日本はそういう史跡保存のための法律がちょっと違うと思うな。

【池田委員】だから外側は何にも書いてないんですよ。

エレベーター作って中で上がってくもんですから、外に全然影響なんて、見えないとこでやっちゃったんだけどね。そういうのを、だから外に多分これ作るのは難しいから、先生おっしゃったように、防空壕とは言わないけどな、中に入って、できるものがあるれば、その方が楽でいいですけどね。

でも、そこまでして、展示がいいかどうか、小牧山城がね、そうですね。そこなんですよ。年間何万という人が入れればいいんですけど。これが10万単位になるとかなれば、多分そうやってもペイするかな。

エレベーター代だけで、かなり高い料金取ればいいんです。エレベーター上るのに対して、そこは自己負担だからね、そういうのが、取ればいいんですけどそれがちょっとね、まだ今後の課題ですよな。

今やれって言ったって無理ですので、多分しばらくは自分の力で上っていただかないといけないという、そうするとせいぜい上げるとしたら今の現行の展示でいくんやったら、せいぜい2倍までがいけるかいけないか、それで、西川先生がおっしゃったように、文化都市というのを小牧市が出して、ここはもう100円という、ただ、要するに入る人と入らない人の差別化のために100円だけ取りますよという、そういう発想で100円のままに置くのか。

だから、市の方策として、どうするのか、ただ上げて2倍にしたってなんにもこれなんての焼け石に水みたいな感じなんで、どんなものか、ただ展示がものすごくよくなって、200円払ってもすばらしいと思うんだったら、いいかなと思いますので、でき上がった展示によって、新しい展示によってちょっとこの値段は値上げするかしないかは考えたほうがいいかなという感じですね。

料金の見直し、その他にご意見ございませんか。

【富嶋委員】小中無料はぜひしてほしいです。

【池田委員】それは絶対ですね。取っちゃったらまずいです。

その他のことありましたらお願いします。

【池田委員】ありがとうございました。

それではすべての議題が終了しましたので、進行を事務局にお返ししますのでお願いいたします。

【事務局（武市）】はい。本日のご審議どうもありがとうございました。

今日いただいた意見も踏まえまして、歴史館の改修ですとか、料金の見直しを進めて参りたいと思います。

これをもちまして令和4年度小牧市歴史館等運営委員会を閉会させていただきます。

どうもありがとうございました。

【池田委員】ありがとうございました。